

東アジアの美術に関する資料学的研究 (①美01-09-4/5)

目 的

日本を含む東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが複雑に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみを解明することを目指す。研究にあたっては、より質の高い資料の提示が求められる時勢に対応して、新しい技術、精度、信頼性、網羅性など必要な条件を満たすこれからの美術資料のあり方や可能性を探り、資料の収集・蓄積・公表等においてそれを具体的に実現することに留意している。

成 果

1) 情報資料の収集のための調査

近現代美術の保存・修復に関する調査を英国テートギャラリー、オランダ文化財研究所 (ICN) を中心に行った (森下)。

2) 美術史研究のためのコンテンツの形成

平成22年度に『日本絵画史年記資料集成 (15世紀)』を刊行すべく、古美術展カタログ等に散在する情報を抽出して統合するための仮登録作業を終えた (登録総数約3770件、重複を含む)。続いて対象を絵画資料に絞って統合作業を進めた (約560件) (綿田)。また、既に当研究所OBによってカード化されている古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化を行った。作業にあたっては当該記事本文も入力し、公開時の利便性を図った (約500件) (土屋)。

3) 研究会の開催

2月25日に研究会「セインズベリー日本藝術研究所と英国の文化財アーカイブ」を平野明氏 (セインズベリー日本藝術研究所リサ・セインズベリー図書館) を発表者、出光佐千子氏 (出光美術館)、森下をパネラーとして開催した。またオープンレクチャーを本研究と関連させ、「人とモノの力学」というテーマのもと10月2・3日に開催した (内容については、70頁を参照)。

論文等掲載 3件

- ・ 皿井舞 「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織 (下)」 『美術研究』 398 09.8
- ・ 田中淳 「序論—黒田清輝フランス語資料集のために」 『黒田清輝フランス語資料集』 10.3
- ・ 森下正昭 「コンテポラリー・アートに関する美術館の新たな取り組み—英国テート・ギャラリーとINCCAのアーティスト・インタビュー・アーカイブ」 『美術研究』 400 10.3

口頭発表 3件

- ・ 吉田千鶴子 「今泉雄作「記事珠」の研究・中間報告—宝物調査日記を中心に」 企画情報部研究会 09.9.30
- ・ 土屋貴裕 「「異国」をこしらえる—「玄奘三蔵絵」をめぐる」 企画情報部オープンレクチャー 09.10.2
- ・ 中野照男 「大谷探検隊収集西域壁画の光学的調査」 企画情報部オープンレクチャー 09.10.3

出版物 1件

- ・ 『黒田清輝フランス語資料集』 東京文化財研究所 10.3

研究組織

○塩谷純、田中淳、勝木言一郎、津田徹英、山梨絵美子、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕 (以上、企画情報部)、中野照男 (副所長)、相澤正彦、吉田千鶴子、三上豊、森下正昭 (以上、客員研究員)